

1. 交通

町内の各駅

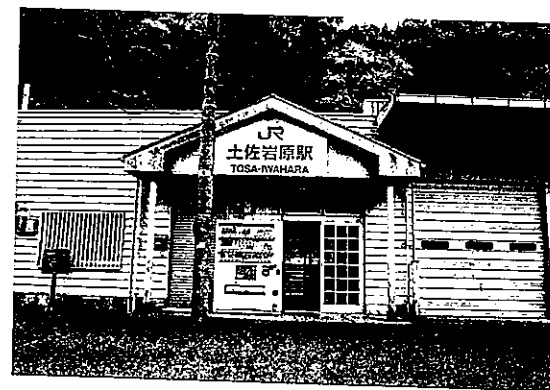
本町には、香川県の多度津駅と高知県の窪川駅を結ぶ土讃線（路線延長1198.7km）が走る。国鉄時代は「土讃本線」と呼ばれていたが、JR四国に民営化された後の昭和六十三（一九八八）年六月一日に線路名改正により「土讃線」に改称された。

本町に置かれる駅は、香川県側から土佐岩原駅、豊永駅、大田口駅、土佐穴内駅、大杉駅、土佐北川駅、角茂谷駅の七つである。いずれも、昭和六十二年四月一日の国鉄分割民営化によりJR四国に継承された。

〈土佐岩原駅〉

岩原にある土佐岩原駅は、本町の最北に位置する駅、すなわち高知県最北の駅である。昭和十（一九三五）年十一月に開業、昭和四十五年十月に無人駅化し、昭和六十一年十二月二十六日に新駅舎に改築された。この改築に伴い、同駅舎に大豊町農協岩原事業所が合体施工された。

農協岩原事業所は昭和四十三（一九六八）年に建設され、その後のモータリゼーションの進展の中、道路が狭隘で駐車場もないことから利用上不便を来し、改築移転の要望が出されていた。大豊町農協は国鉄四国総局と協議を重ね、駅舎と農協事務所を合体施工することで合意に達し、四国でも例のない農協と国鉄が一つ



土佐岩原駅

屋根の下を活用するというユニークな建物となった次第である。

建設面積は一一四・八五平方メートル、鉄骨平屋建てで、国鉄分は待合所一〇・五平方メートル、農協関係分は事務所と倉庫で九二・五平方メートル。外観は白壁のモダンな建物である。事業費は設計管理費、国鉄機器の移転、備品等を含めて約一四〇〇万円。設計管理には高知県経済農業協同組合連合会が当たった。

農協と共有する駅舎は「農協駅」として親しまれたが、平成十二（二〇〇〇）年に農協（平成四年四月から「JA」の名称を使用）の併設が廃止され、再び無人駅となっている。

〈豊永駅〉

東土居にある豊永駅は昭和九（一九三四）年十月二十八日に開業、昭和五十九（一九八四）年二月一日に簡易委託駅となった。簡易委託駅とは、国鉄（及び鉄道会社）が近距離乗車券類の発売などの一部業務を市町村・農協・駅前商店・個人などに委託した駅のこと、分類上は「無人駅」として扱われる。

昭和六十三年二月二十九日には新駅舎が落成し、三月一日から四年ぶりに有人駅として復活した。平成二（一九九〇）年十一月二十一日に変則無人化（土曜・日曜・祝日に限り無人化）し、平成四年四月一日から駅員が準社員化（パート）されたが、平成二十二年九月一日に完全な無人駅となった。現在、自動券売機が



豊永駅

1. 交 通

設置されている。

〈大田口駅〉

黒石にある大田口駅は昭和九（一九三四）年十月二十八日に開業、昭和四十五年十月一日に簡易委託駅（無人駅）となった。列車同士が行き違える交換可能駅で、特急列車同士の行き違いも行われている。

〈土佐穴内駅〉

穴内にある土佐穴内駅は昭和九（一九三四）年十月二十八日に開

業。昭和二十九年、列車を土砂災害から守るために和田山トンネルが建設されたのに伴い、土佐穴内駅も現在の場所に移転した。昭和四十五年十月一日に簡易委託駅（無人駅）となった。駅舎はなく、ホームにトイレを併設した待合所が設けられている。

〈大杉駅〉

中村大王にある大杉駅は昭和七（一九三二）年十二月二十日に開業。昭和六十三年四月に改築され、杉材を使用した名物駅舎として町内外から親しまれた。



新築された大杉駅

町内で唯一特急列車が停まる駅であるが、平成二（一九九〇）年のダイヤ改正により、岡山直通特急の停車がなくなるといふ事態を迎え、嶺北五カ町村では首長はじめ関係者が特急停車の復活を求める陳情を行い、翌三年十一月、新ダイヤで岡山直通特急の上下各一本停車を実現させた。さらに、平成四年十月から駅員の準社員化（パート）を打ち出したJR四国に対し、本町では町長が嶺北四カ町村長と連携し、九月十七日にJR四国本社に向いて協議するとともに、町議会が要望書（前掲の図表4-1-25参照）を提出したことは前述したとおりである。

平成十六（二〇〇四）年一月二日、大杉駅は駅舎が全焼するという火災に見舞われた（詳細は380ページ参照）。同駅はプレハブの仮駅舎で営業を続行したが、町議会六月定例会において町長が「大杉駅舎再建協議会」（仮称）の立ち上げを表明、駅舎再建へ向けた動きが始まった。呼応して大杉中学校生徒が駅舎再建への参画を申し出、「キラリ」はくたちの元気の出るふるさと駅作りプロジェクト」を立ち上げ、全校生徒が建築班・記録班・イベント班の三班に分かれて活動を展開した。九月、大杉中学校生徒たちが日本一の大杉である夫婦杉（北杉と南杉）をモチーフにした駅舎のデザインを提案、このアイデアを取り入れた設計が進み、十二月一日に着工した。木造平屋建ての新



大田口駅



土佐穴内駅

1. 交通

駅舎が大豊町つどいの広場「とまレール大杉」として完成、落成式が挙行されたのは翌十七年三月十二日のことであった。落成式は、一日駅長を任された大杉中学校三年生の松岡和広さんと山本茜さんの司会によって進行し、町長と来賓の挨拶、テープカットとくす玉割りに続いて、鳴子踊りと生徒自作の歌「夢路線」が町民に披露された。

大杉駅における停車列車数の変遷は図表4-1-26のとおりである。

〈土佐北川駅〉

久寿軒にある土佐北川駅は、昭和三十五（一九六〇）年十月一日に開業した。このとき、久寿軒中学校が大杉中学校に統合され、旧久寿軒中学校生徒たちの大杉中学校への通学の足を確保するために開設されたものである。

その後、国鉄土讃本線（当時の線路名）の災害・事故防止の一環として、昭和五十五年十二月から大杉～角茂谷駅間の線路の付替工事が施工された。この工事は土佐北川駅付近を国鉄大豊トンネル（延長二〇六七メートル）経由の新線に切り替え、土佐北川駅を穴内川に架かる鉄橋の上に移転するというもので、昭和六十一年三月三日に完成した。工事延長二・九キロ、総工費五八億円、工期は六年であった。これにより、土佐北川駅は全国初の鉄橋上に設置された駅となり、現在もJRグループ唯一の鉄橋駅である。

それまで土佐北川駅は上下六本の普通列車が停車するだけであつたが、このうち普通列車全便が停車することとなった。無人駅である。

〈角茂谷駅〉

角茂谷にある角茂谷駅は昭和五（一九三〇）年六月二十一日に開業、昭和四十五年十月一日に無人駅となった。角茂谷駅は一面一線で行き違いのできない駅である。駅舎の跡に「天坪ふれあい休憩所」があり、実質的に待合所となっている。

乗降客数の推移

図表4-1-27は、本町内の七駅における一日平均利用者数の推移を五年ごとに示したものである。

利用者の減少は、自家用車での通勤や移動が増えたこと、少子化により主な定期利用者である通学生徒数が減少していることなどが要因であると考えられる。



土佐北川駅



角茂谷駅

図表 4-1-26 大杉駅の停車列車数の変遷

年月	普通列車		特急列車	
	上り	下り	上り	下り
昭和 60 年 5 月	8	9	6	6
平成 2 年 5 月	8	10	5	4
平成 7 年 5 月	8	9	5	3
平成 12 年 5 月	8	9	4	4
平成 17 年 5 月	8	9	7	9
平成 22 年 5 月	8	9	8	9

注：普通列車は大豊町内の他の駅にも停車している。

特急列車の停車は大杉駅のみ

資料：JR四国総局

〈土佐岩原駅〉

老人クラブ「円和会」がツツジと花壇の手入れを行っている。駅前の銀杏の管理は有志で行っている。トイレも汚れている場合は有志が洗い流している。

〈豊永駅〉

駅周辺の草刈りは山法師会が行っている。日頃は汚れに気づいた人がボランティアで清掃を実施しており、草刈りやトイレ清掃などは周辺の人々に呼びかけて共に行っている。個々には待合室の椅子に座布団を備えたり、花鉢を置いている。

〈大田口駅〉

老人クラブ「榮寿会」が月に一、二回ボランティアで清掃活動を行っている。駅舎の前のサクラの花びらや落ち葉の時期は気を付けている。

〈土佐穴内駅〉

以前は穴内中学校の生徒が掃除していたが、中学校が休校になって以降は穴内小学校の児童が駅周辺の掃除をしていた。小学校が休校してからは地域の区長会が行っている。駅前のサクラ並木は見事な花を咲かせている。

〈大杉駅〉

唯一の有人駅であるが、駅舎は町の施設で、「とまレール大杉の会」が指定管理者となって管理している。会のメンバーが交代で朝六時から夕方六時まで切符販売などを行っている。ホームの清掃はJRが、トイ

1. 交 通

レは会が行っている。

〈土佐北川駅〉

鉄橋の上の駅として有名だが、トイレは久寿軒婦人会が毎週一回清掃、花壇は老人クラブ「久北会」が手入れをボランティアで行っている。

〈角茂谷駅〉

老人クラブ「天坪長寿会」が月の第二火曜日に花壇の手入れ、周辺の草刈り、ホーム、トイレなどの掃除をボランティアで行っている。また、利用者の中で別個に清掃をしている人がいるとのことである。

土讃線が開通し駅が置かれると、人やモノの流れはそこに集まった。駅は、経済的にも文化的にも地域の拠点となった。現在のような車社会が到来する以前は、汽車が唯一の基幹的な交通機関であった中で、地域の人々は駅に特段の愛着をもってきた。昔のようなにぎわいはなくなったが、今でも駅は地域の顔であり、玄関である。これは、駅の清掃などにボランティアで取り組んでいる人たちの共通の思いである。余談ながら、高知の山村、なかでも県西北部の愛媛県境付近の村々に多い「茶堂」は旅人を接待する場所として知られるが、客人の来訪を喜び厚くもてなすという文化が、大豊町においてはこの駅と周辺を清らかに保つという奉仕活動の形をとって生きているのではあるまいか。ともあれ、JRもこうした地域の人々の協力に対し感謝状等を授与して謝意を表している。

2. 火災と消防

以余りを全焼する火災が発生した。幸い、けが人はなかったが、現場は豊永小学校（現・大豊小学校）下の住宅密集地で、消防車や避難する住民たちで騒然となった。火元は住宅兼雑貨店の一階居間の可能性が高く、居間には火鉢が置いてあり失火と見られている。

通報を受けて、嶺北消防署のほか地元の消防団など約一五〇人が次々に出動。豊永消防分団は通報を受けて七分後の午前四時三十五分に到着し、消火栓のほかに近くの豊永小学校のプールからも水を汲み上げて放水したが、火の勢いが強く約二時間半後に消し止めた。

この火事の影響で付近の住宅の電話約一四〇回線が不通となったが、同日午後には復旧した。



東土居の火災

JR大杉駅の火災

平成十六（二〇〇四）年一月二日午後十時頃、中村大王のJR土讃線大杉駅から出火し、木造の駅舎約一二〇平方メートルが全焼した。駅舎は売店を併設する待合室と事務室に分かれ、平日は券売などを行う駅員一人と売店店員の計二、三人が勤務していたが、この日は売店だけが営業しており、午後五時以降は無人になっていた。駅舎には火の気はなかった。たばこの火の不始末が原因ではないかとの見方もあったが、出

火原因の特定には至らなかった。この火災で岡山発高知行き特急南風二七号が阿波池田駅で約五〇分間停車するなど、三便が最大で約一時間遅れ、帰省客ら約一四〇人に影響が出た。

船戸の火災

平成十九（二〇〇七）年三月一日午前三時頃、船戸で店舗兼民

家から出火し、家屋二棟を全焼、隣接する民家とスーパーマーケットを部分焼した。出火箇所は、店舗内の南奥台所入口付近と見られ、漏電ではないかと推察されているが、はっきりとした出火原因は解明されていない。

この火災で、出火元と見られる住宅の老夫妻が焼死した。出火時刻が午前三時頃であったため、逃げ遅れたことが惨事につながったと見られる。



船戸の火災



JR大杉駅の火災